



TITLE:

戦争ト英國ノ貿易

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

---

CITATION:

河田, 嗣郎. 戦争ト英國ノ貿易. 經濟論叢 1915, 1(6): 777-781

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126926>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號六第

卷一第

## 論說

●米價ノ騰落ト其調節ニ就テ(一)

●穀物倉庫論

●貧富問題(三)(完)

法學博士 戸田 海市

助教授 河田 嗣郎

法學博士 田島 錦治

## 雜錄

●大藏省證券ニ就テ尾上學士ニ應フ

●南洋新占領地研究ノ二まゝしやる群島研究

●保險學說ノ發展(一)

法學博士 小川 郷太郎

助教授 山本 美越乃

法學士 小島 昌太郎

## 雜報

●經濟的進化ト人口法則(二)(完)

●最近ノ金融問題(一)

●廣告稅ト廣告官營

●戰爭ト英國ノ貿易

●社會政策學會第九回大會記事

●京都法學會大會記事

講師 米田 庄太郎

法學博士 谷村 一太郎

助教授 神戶 正雄

講師 河田 嗣郎

高田 保馬

如キ價格實數ヲ示スコトガ出來ル。(單位百萬磅)

自一月至七月平均	三八・二	四三・五	四二・八	一九二二	一九一三	一九一四
八月	四三・八	四四・一	二四・二			
九月	四三・二	四二・四	二六・七			
十月	四八・三	四六・六	二八・六			
十一月	四三・四	四四・八	二四・六			
十二月	四一・五	四三・三	二六・三			
今一月ヨリ七月ニ至ル迄ノ實數ヲ一〇〇ニ立						
テ以下各月ノ指數ヲ取り、ソレヲ一九〇四年カ						
ラ一九一三年ニ至ル十年間ノ平均ニ於テ示シ、						
更ニ昨年八月以降ノ各月ニ於ケル仕事日(休日						
ヲ除キタルモノ)ノ數ニ應ジテ之ヲ訂正シタル						
モノヲ示セバ、實ニ左ノ如キ指數が得ラレル。						
八月	九月	十月	十一月	十二月		
十年平均指數	一〇六	一〇四	一一一	一〇七	一〇五	
一九一四年指數	一〇四	一〇六	一一一	一〇四	一〇六	
仍テ昨年八月以降ノ輸出實數ト、此ノ指數ニ						
依リ十年平均ノ上ヨリ之ヲ見テ若シ戰爭ノ起ラ						
ナカツタト假定スレバ正二期待セラル可カリシ						

# 戰爭ト英國ノ貿易

助教授 河田 嗣 郎

戰爭が英國ノ輸出入貿易ニ對シテ與ヘタ影響ニ就テ S. Rosenbaum 氏ハ本年五月十八日 The Royal Statistical Society ニ於テ開戦以來本年四月ニ至ル迄ノ九月月ニ涉ツテノ研究ヲ公讀シタ。左ニ其ノ概要ヲ抄録スル。

先ツ開戦後昨年末ニ至ル迄ノ輸出貿易ニ就テ見ルニ、前年及ビ前々年トノ比較ニ於テ左掲ノ

輸出額トヲ比照スレバ左ノ如キ數字ガ得ラレル

輸出指數 輸出額 輸出減

一月七月平均

四二・八 一〇〇

四四・五 二〇・三

八月

二四・二 一〇四

四四・五 二〇・三

九月

二六・七 一〇六

四四・五 一八・七

十月

二八・六 一一二

四七・九 一九・三

十一月

二四・六 一〇四

四四・五 一九・九

十二月

二六・三 一〇六

四四・五 一九・九

八月十二月合計 一三〇・四 一二三七七 九七・三

因是觀是、開戰ノ爲メ英國ノ輸出貿易ハ五ケ月間ニ九千七百三十萬磅ヲ減ジタト云ヒ得ラルルノデアツテ各月平均實ニ千九百五十萬磅ノ減少デアル。

次ニ右同様ノ觀方ニ依ツテ輸入貿易ノ有様ヲ見ルニ、先ヅ其ノ實數ハ(單位百萬磅)

自一月至七月平均	五八・九	六二・九	六二・二
八月	五九・七	五六・〇	四二・四
九月	五七・二	六一・四	四五・一
十月	七一・〇	七一・七	五一・六
十一月	七一・〇	六八・五	五六・〇
十二月	七四・一	七一・一	六七・六

而シテ十年平均指數ト昨年ニ就キ訂正サレタル指數トハ左ノ如クデアル。

八月 九月 十月 十一月 十二月

十年平均指數

九五 九六 一〇九 一二四 一二七

一九一四年指數

九三 九八 一一〇 一一一 一一八

例ニ依リ此ノ指數ニ依リテ假定セラル可キ輸入額ト實際ノ輸入額トヲ比照スレバ

輸入指數 假定輸入減

一月七月平均

六二・二 一〇〇

一

八月

四二・四

九三 五七・八 一五・四

九月

四五・一

九八 六・〇 一五・九

十月

五一・六

一一〇 六八・四 一六・八

十一月

五六・〇

一一一 六九・〇 一三・〇

十二月

六七・七

一一八 七三・四 五・八

八月十二月合計 二六二・七 一三三九・六 六六・九

右ニ照シテ是ヲ觀レバ輸入減ハ假定額ノ約五分ニ當ル譯デアル。而シテ輸入實數ハ二億六千二百餘萬磅ヲ示シテ居ルケレトモ之ニ就テハ價格ノ約五歩方騰貴シタル事實ヲ考慮セナケレバナラヌカラ平價ナラバ先ヅ二億五千萬磅ト見ルヲ適當トスルデアラウ。從テ輸入減ハ七千九

百〇萬磅トナリ、實ニ平時トシテノ假定額ニ對シ  
二割四分ノ減少トナル譯デアル。

仍テ翻テ再輸出ノ狀況ハドウカト見ルニ、之  
モ右ノ方法ニ依ル實數ト假定數トノ比較ヲ示シ  
テ見ヤウナラバ、(單位百萬磅)

再輸出 實數	指數	假定再 輸出額	再輸出 減
一月—七月平均	九・六	一〇〇	—
八月	四・四	九〇	八六
九月	五・三	八二	七八
十月	七・二	九八	八九
十一月	五・六	八九	六八
十二月	五・九	一〇七	一〇三
八月—十二月合計	二八・四	四二四	四一四

即チ再輸出額ニ於ケル減少ハ平時トシテノ假  
定額ノ約三分一ニ當ルノデアル。

尙ホ輸入品ノ大種別ニ就テソガ戰爭ノ爲メニ  
價格ノ騰貴ヲ齎シタル割合ヲ調べテ見ルト左表  
ノ如キ狀況ナルヲ知ルコトガ出來ル。

註 普通字—實際價格(一九一三年自一月至七月—一〇〇)  
肉太字—平時ト假定シテノ價格(右ニ同ジ)

	八月	九月	十月	十一月	十二月
一 食料飲料 及煙草	二一三	二二二	二二三	二二四	二二六
二 原料品及 未製品	九七	一〇一	一〇二	一〇四	一〇六
三 全製品	二〇二	九八	九八	九七	一〇〇
合計	二〇四	二〇八	二〇七	二〇六	二〇八

以上ハ開戰以後昨年末ニ至ル迄ノ輸出入狀況  
デアルガ、尙ホ進ムデ本年初頭以來四月末ニ至  
ル迄ノ有様ヲ調査シテ見ルニ、先ヅ輸出ニ於テ  
昨年同期トノ比較左表ノ如キモノガアル。

輸出	實額	前年平均價格 ニ於ケル計算	實額	差額 (單位 百萬磅)
一 食料飲料 及煙草	七・九五	七・三七	九・四八	(-) 二・一
二 原料品及 未製品	一六・一一	一四・六九	二二・八〇	(-) 八・一一
三 全製品	八九・〇五	八九・〇五	一三七・八五	(-) 四八・八〇
四 雜	三・六七	三・五九	三・四一	(+) 〇・一八
總計	二六・七七	二四・六〇	一七三・五三	(-) 五八・九三

即チ本年一月以來四月迄ノ總輸出額ハ一億一  
千六百餘萬磅デ之ヲ昨年同期ニ比スレバ五千六

百萬磅ノ減少デアルガ、價格平均凡ソ二步ノ騰貴ヲ爲シテ居ルカラ其ノ事情ヲ斟酌シテ計算シテ見ルト其額一億一千四百萬磅ニ下リ昨年ニ比シ實ニ約五千九百萬磅ノ減少トナルノデアル。

次ニ輸入ノ方ニ就テ見ルト此方ハ右ト事情ヲ異ニシテ却テ輸入額ノ増加ヲ示シテ居ル。

輸入	實額	前年平均價格 ニ於ケル計	實額 (單位百)
一九一五年一月—四月	一九一四年同期	差額	

一、食料飲料 及煙草	二二〇・三三	九四・七三	九〇・八七	(+) 三・八六
二、原料品及 未製品	一〇五・七八	一一七・五三	九九・九四	(+) 一七・五九
三、全製品	五四・五〇	五二・九〇	六六・五九	(-) 一三・六九
四、雜	一・〇六	一・〇〇	一・二三	(-) 〇・二三

總計……二八一・六八二六六・一六二五八・六二 (+) 七・五四

右ニ因テ是ヲ觀レバ輸入價格總計ノ増加ハ實ハ約三%デアルガ、就中食料品ノ如キハ四%原料品ノ如キハ一七%ノ増加ヲ示シテ居ル有様デ、此事ハ一面英國海軍ノ制海權ノ十分ナルヲ實證スルモノト云ハネバナラス。然シ右ハ唯ダ輸入額ノミニ就テノ比較デアルカラ、精確ヲ期スルガ爲メニハ此額中カラ再輸出額ヲ控除シ

タモノニ就テ比較ヲシナケレバナラヌ譯デア。即チ左ニ之ヲ示スコトスル。

純輸入	實額	前年平均價格 ニ於ケル計	實額 (單位百)
一九一五年一月—四月	一九一四年同期	差額	

一、食料飲料 及煙草	一一二・〇	八八・二	八五・三	(+) 二・九
二、原料品及 未製品	八九・二	九九・〇	七四・九	(+) 二四・一
三、全製品	四七八	四六・四	五七・〇	(-) 一〇・六
四、雜	一・一	一・一	一・二	(-) 〇・一

總計……二五〇・〇 二三四・七二二八・四 (+) 一六・三

此ノ結果ニ徴シテ之ヲ見レバ純輸入總計ノ増加歩合ハ七%デアツテ、就中食料品三%、原料品及ビ未製品三二%ノ増加ヲ示シテ居リ、全製品ハ之ニ反シテ一九%ノ減少ヲ爲シテ居ル次第デアル。此表ハ頗ル興味アルモノト云ハナケレバナラス。

以上數字ニ示ス所及ビ其他ヲ概括スルト

- (一) 開戦後九ヶ月間ニ於テ輸出價格ノ減少ハ一億五千五百萬磅デアツテ、平時平價ニ於ケル同期間ノ輸出額ニ對シ、正ニ三割九分ヲ減ジタ譯デアル。
- (二) 然シ右輸出減少ノ額ハ月ト共ニ漸次少クナツテ來、當初五ヶ月間ハ一ヶ月平均千九百五十萬磅 (一週平均四百五十

萬磅)ノ減少デアツタモノガ、本年一月以後三ヶ月間ハ一ヶ月平均千七百萬磅(一週平均四百萬磅)トナリ、本年四月ニハ八百二十五萬磅(一週平均二百萬磅)トナツタ來タ。

(三)輸出貿易ニ於ケル價格騰貴ハ概シテ程度ノ低イモノデアリ、勿論月々ニ變化ハアルガ本年自一月至四月騰貴ハ平均二%ニ過ギヌ。

(四)次ニ九ヶ月間ノ輸入實驗ハ之ヲ平時ノ狀態ト假定シテノ豫想額ニ比スレバ四千四百萬磅ヲ減シテ居リ、豫想額ニ對シハ%弱ノ減少デアル。之ヲ純輸入ニ就テ見レバ減少額二千一百萬磅、減少歩合四%デアル。

(五)開戦後六ヶ月間ハ純輸入ノ減少額月ト共ニ少クナリ、本年二月以來ハ却テ半年ヨリモ純輸入額ノ増加ヲ見ルニ至ツタ。

(六)輸入貨物ニ關スル價格騰貴ハ當初五ヶ月間ハ三乃至七%ノ歩合ヲ示シテ居リ、後ノ四ヶ月間ハ七%ノ騰貴ヲ見ルニ至ツタ。

(七)輸出ニ於ケル價格騰貴ト輸入ニ於ケル騰貴トノ歩合ヲ比較シテ見ルト、後者ハ前者ヨリモ遙カニ程度が高ク、然カモ戰ノ續クニ連レテ兩者ノ懸隔が大トナツテ來ルノデアルカラ其ノ差額ヲ平均スルダケニデモ益多量ノ輸出ヲ要スル次第デアル。

要スルニ戰爭ノ爲メニ被レル英國貿易ノ損失ハ人ノ之ヲ思フヨリハ小デアルガ、之ハ軍需品ノ取引ノ爲メニ寛和サレタル所多大ナルガ故ニ

然ルノデアルカラ、平和克復後軍需品取引ノ止ム時ニ於テ、失ハレタル輸出ノ販路ヲ如何ニシテ恢復ス可キカノ問題ハ、現下戰時中ニ於ケル貿易額減少ノ問題ヨリモ遙カニ緊要ナル問題デアル。憂慮ス可キハ此ニ在リ講究努力ヲ要スル所モ此ニ在ル。(The effect of the War on the Overseas Trade of the United Kingdom.—Journal of the Royal Statistical Society. Vol. LXXVIII.—Part IV. July 1915. pp 501—512)